

Q-AOS Brown Bag Seminar #13 質問に対する回答

※個人情報に関わる表現等を削除させて頂いております。ご了承下さい。

質問1:

乱獲や魚種資源の枯渇の懸念がある中で、国境を越えたグローバル規模でより持続可能な漁業を促進する戦略があると思いますか？ あるとしたらどのようなアプローチが最も有望でしょうか？

各国の漁獲量は国連食糧農業機関(FAO)によって持続可能性を考慮して管理されていますが、違法操業(IUU)などによる乱獲も行われています。為政者の海洋ガバナンスを高めていく方法の一つは、IUU 漁業ではないという証明書の発行でしょう。近年の技術革新(GNSS 測位や IC タグ管理など)は、こうした証明書の発行を行いやすくしていると思います。持続可能性を保つ別の方法としては、獲る漁法から育てる漁業への転換を推奨することも挙げられると思います。

質問2:

一般にクリーンな発電とされている発電方法が後世にどのような影響を与えるのか未知数であるとのことでしたが、先生はどの発電方法がもっとも環境への悪影響が少ないと考えていますか？

私は発電が専門ではないので明確な解答はできませんが、基本的に発電所のサイズに依ると思います。小さなコミュニティの電力を維持するだけなら、ほとんどの「クリーン発電」の能力でカバーできますし、維持設置のための環境負荷も小さいです。一方、大きなコミュニティに安定して電力供給する場合、一般に発電効率が低い「クリーン発電」だと広大な設備が必要になり、かえって環境に負荷をかける可能性もあります。「クリーン発電」にとって大切なのは、発電の部分だけではなく、消費電力を下げたり、蓄電や送電の効率を上げたりして、なるべく小さな発電所で済むようにすることだと思います。